

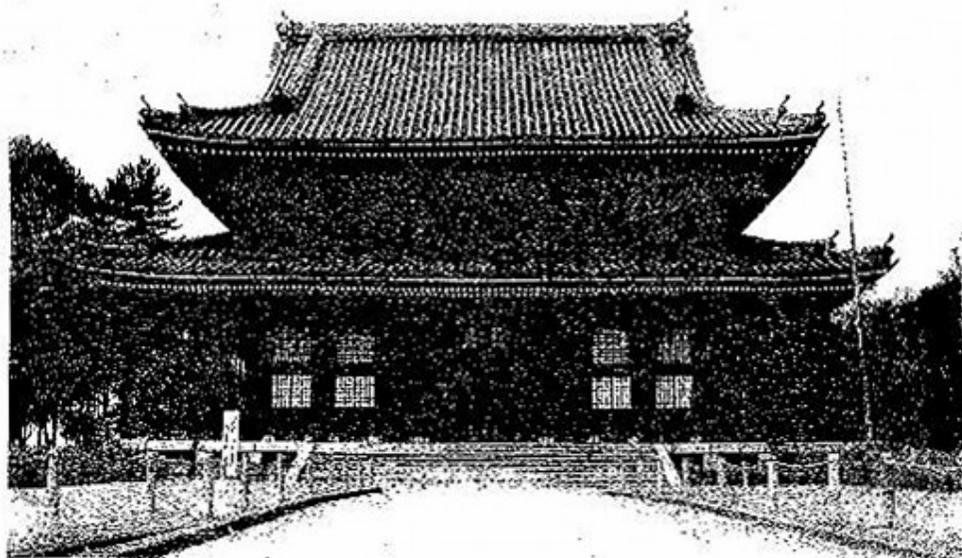
平成20年11月18日(火)

第385回 史跡めぐり

横浜市総持寺周辺と

横浜中華街を訪ねて

NPO 法人 越谷市郷土研究会



仏殿
Butsuden

入母屋・二重層級の檜葺き。別名「大雄宝殿」という、七堂伽藍の中心の建物。お釈迦様、遊樂尊者、阿彌尊をお祀りしている。

第385回 史跡めぐり

横浜市総持寺周辺と横浜中華街を訪ねて

実施日 平成20年11月18日(火)

集合 JR 南越谷駅東口ーりそな銀行前

集合時間 午前7時20分 出発 午前7時30分

コース 越谷 → 首都高速 → 総持寺周辺 → 横浜中華街
→ 首都高速新山下 → 越谷

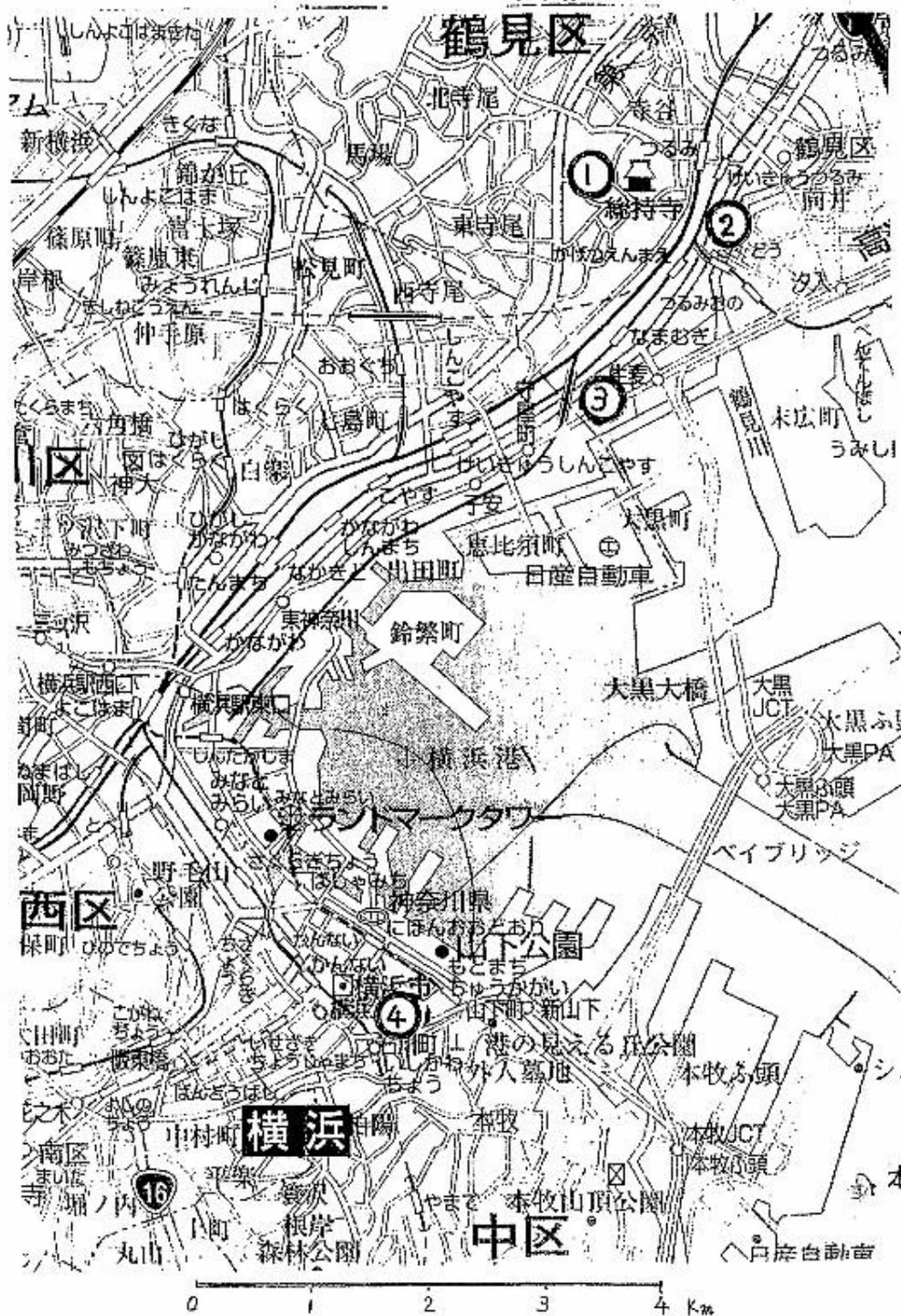
参加費 6500円 (バス代、拝観料、精進料理、資料代、保険料等)

見学場所

- ◎ 国道駅(バス車窓より)
- ◎ 生麦事件参考館(館長 浅見武夫氏説明) (AM9.15~10.44)
- ◎ 曹洞宗大本山総持寺拝観 (AM11.00~12.00)
- ◎ 昼食(精進料理) (AM12.00~PM1.00)
- ◎ 寺内散策及び裕ちゃん墓見学 (PM1.00~PM1.30)
- ◎ 曹洞宗医王山成願寺 (PM1.40~PM2.30)
- ◎ 横浜中華街 横浜媽祖廟 (PM3.00~PM3.20)
- ◎ 横浜中華街 横浜閔帝廟 (PM3.25~PM3.40)
- ◎ 横浜中華 散策 (PM3.40~PM5.00)

横浜市地図(鶴見区、中区地域)

- ① 総持寺(鶴見区鶴見 2-1-1) ② 国道駅(鶴見区鶴見中央 5)
 ③ 生麦事件参考館(鶴見区生麦 1-11-20) ④ 中華街(中区山下町)

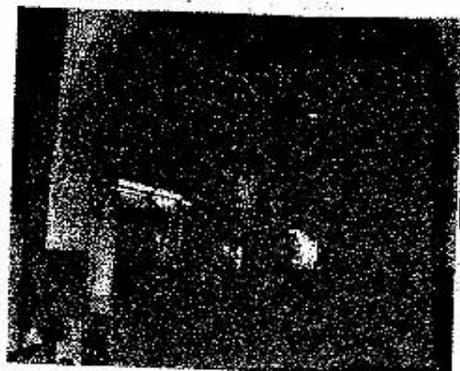


国道駅（車窓より）

JR 鶴見線——国道駅の駅舎

京浜第一国道と交差させて、昭和5年（1930）に開設した駅、駅名「国道」の由来です。駅舎はアールヌーボー風の建物です。開設当時は、ホーム下に「臨海アパート」があり、食品、雑貨、医薬品が販売されていました。旧東海道生麦魚河岸、花月園利用のお客や、駅周辺には映画館もあり賑やかな盛り場でした。現在は「魚河岸通り」が当時の名残をとどめています。

別名極道駅ともいわれ、ヤクザ映画全盛時代の撮影場所となっていた。



生麦事件参考館

江戸末期、薩摩藩士が英国人4人を無礼討ちにして殺傷し、後の薩英戦争の原因となった生麦事件。この事件に関する約150点の資料を10畳ほどの資料館の壁と展示箱に埋め尽くされている。

館長の浅海武夫が集めた写真や地図、古文書などが並び幕末へタイムスリップしたよう。

事件に遭遇した4人のイギリス人の名前は
マーシャル(生糸の輸出商)

マーガレット女子

クラーク(生糸検査員)

リチャードソン(貿易商28歳)——切られて死亡

4人で乗馬して川崎大師見物予定

生麦村で薩摩の行列と出合ったとき二匹の馬が
乱れ行列に入り、行列の進行不能になった。

これを奈良原喜左衛門は、「無礼者」とリチャードソンに切りつけた。——

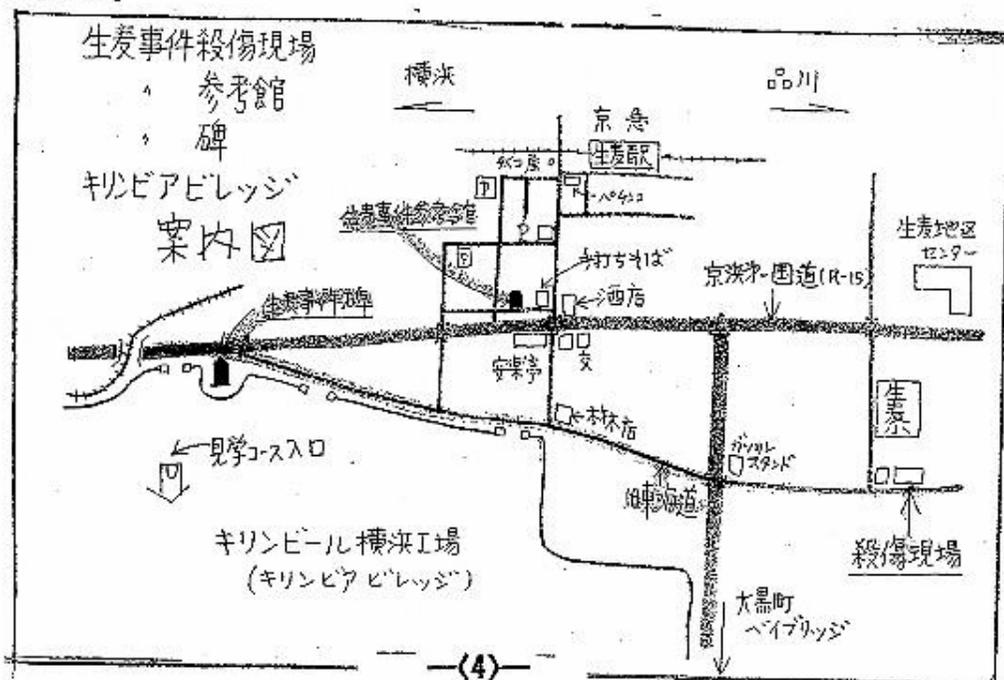
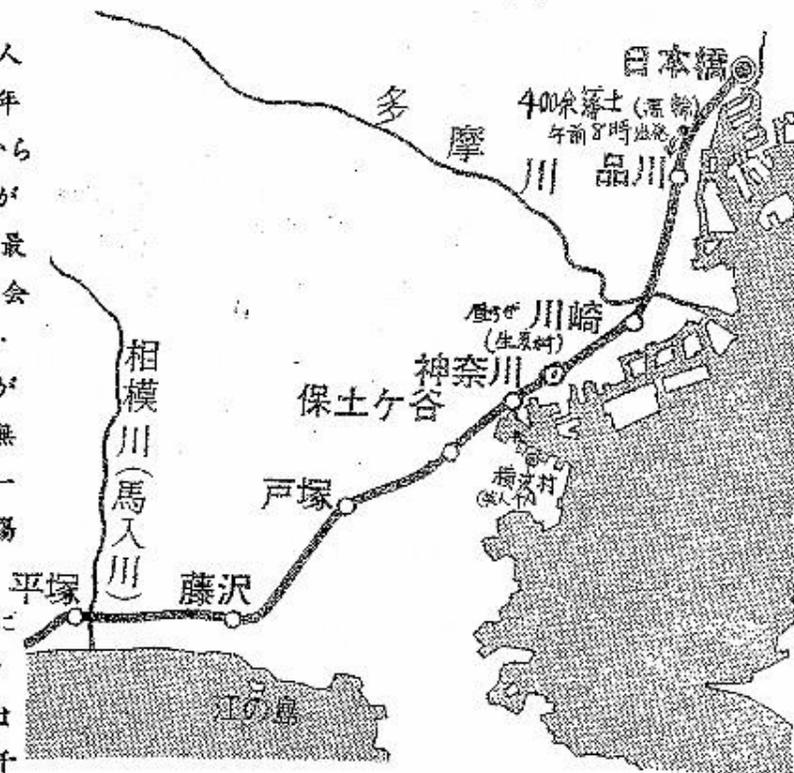
館長の話は名調子で聴衆はいやがおうでも生麦事件の現場の立会人となってしまふ。



生麦事件

幕末薩摩藩士がイギリス人を殺傷した事件。1862年(文久2年8月21日)江戸から京都に向う島津久光の行列が神奈川生麦(横浜市鶴見区の最南端)でイギリス人4名と出会ったとき、奈良原喜左衛門・海江田武次らはイギリス人が下馬して逃げなかったのを無礼なりとして切り、リチャードソンは死に、他の2人は傷ついた。

翌年2月イギリスは幕府に対して正式謝罪と10万ポンドの要求、薩摩藩に対しては首謀者の即刻処刑と2万5千ポンドを要求した。幕府は要求に応じ、薩摩藩は要求に応じなかった。7月ついに薩英戦争になった。



曹洞宗(そうとうしゅう)

禅宗五家の1宗派

禅宗は中国唐代末に五家(臨濟、爲仰(いきょう)、曹洞、雲門、法眼)に分かれた。

曹洞宗の開祖道元(1200~1253年)は、真実に生きる道を求めて、臨濟宗の開祖栄西の門で学び、1223年24歳の春 中国に留学し、寺院を歴訪して真実の仏法を求めたのち、28歳で帰国した。



道元座像

帰国後は京都を中心に、著述に心魂を傾けた。波多野義重の請をいれて1243年越前の山中に移り永平寺を建立し、真実の求道者に正伝の仏法をつたえた。

道元の仏法は榮山紹瑾に伝承され、社会的に多大な発展をとげるようになった。

榮山紹瑾は加賀・能登を教化し、諸嶽寺に入り、この寺を諸嶽山總持寺と名づけた。總持寺は火災にあい1907(明治40)年 横浜市鶴見区に官許を得て寺基を移された。曹洞宗は永平寺と總持寺を二大本山とする、日本では一般庶民の間に深く浸透し、現在15000弱の寺院をもつ日本仏教中の大宗派である。

曹洞宗の特徴

悟ろうとする気持ちすら捨てて、ただひたすら座禅に打ち込む「只管打坐(しかんただ)」。これが曹洞宗の特徴だ。ただ無心に坐禅し修行する姿そのものが「即心是仏」、悟りの姿だとされる。

曹洞宗の宗祖

曹洞宗では、他宗で宗祖にあたる祖師を「両祖」といって二人たてている。ひとり、高祖の道元、もうひとり、太祖の榮山紹瑾。

高祖は父、太祖は、母とたとえられている。

曹洞宗の本尊

釈迦牟尼仏をまつこと多い

總持寺の仏殿には、釈迦牟尼仏と迦葉尊者・阿難尊者がまつられている

永平寺の仏殿には、釈迦牟尼仏と弥勒仏・阿弥陀仏がまつられている

総持寺

総持寺は横浜市の郊外、鶴見ヶ丘に十五万坪の寺域を有し、広大な山内に鉄筋コンクリート製を主とする三十余の伽藍が建ち並ぶ。太祖榮山紹瑾の進歩性を受け継いだ、都市型の修行道場だといえる。ほとんどの建物は地下にめぐらされた回廊によって結ばれている。

総持寺はもと能登櫛比庄(石川県鳳至郡門前町)にあった。

1321(元亨元)年、永光寺住職だった榮山が夢告によって、諸嶽山観音堂を定賢から譲り受けて総持寺開山とした。

榮山紹瑾は後醍醐天皇の意にかない、翌年に「日域無双の禅苑、曹洞出世の道場」という諭旨を受け、勅願大寺とした。

1615(元和元)年に徳川家康により永平寺と同格の本山に列せられ、加賀藩主前田家から寺領を受け、大いに発展した。現在、石川県にも総持寺祖院が再興されている。

総持寺が鶴見に移転したのは1911(明治44)年で、能登園櫛比庄(石川県鳳至郡門前町)にあった総持寺が、1898(明治31)年4月の大火で焼失したことによる。

貫主石川赤堂の英断で1911(明治44)年11月5日都市近郊の現在地に移った。移動の当日は晴天、鶴見一帯は軒並み旗を掲げ、花火を上げ、東京・横浜の信徒が何万となく境内に詰め掛け、大変なにぎわいだったという。もとの総持寺は祖院と呼ばれる。永平寺とならぶ曹洞宗大本山の諸嶽山総持寺は、三門(鉄筋製重層)、三松閣(檀信徒研修道場)、天真閣(団体参詣者の食堂で350畳の広さ)、伝光閣(老師たちの控室)、仏殿(別名 大雄宝殿)、日本一の大きさを誇る本堂の**大祖堂**、醍醐天皇をまつる**御堂殿**、能登から移転して最初に移築された**放光堂**や、僧堂など大小50余の伽藍をもち、大本山としての偉容を誇っている。

「文化財として」

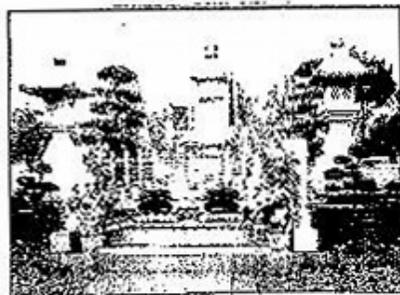
宗内文書(中世末期から近世)のほか、絵画の提婆達多象、榮山禅師像、前田利家夫人像、紹瑾和尚像、刺繍の獅子孔文大法被、書籍の観音堂縁起(いずれも圓重文)などが有名で、宝物殿にときおり展示される。

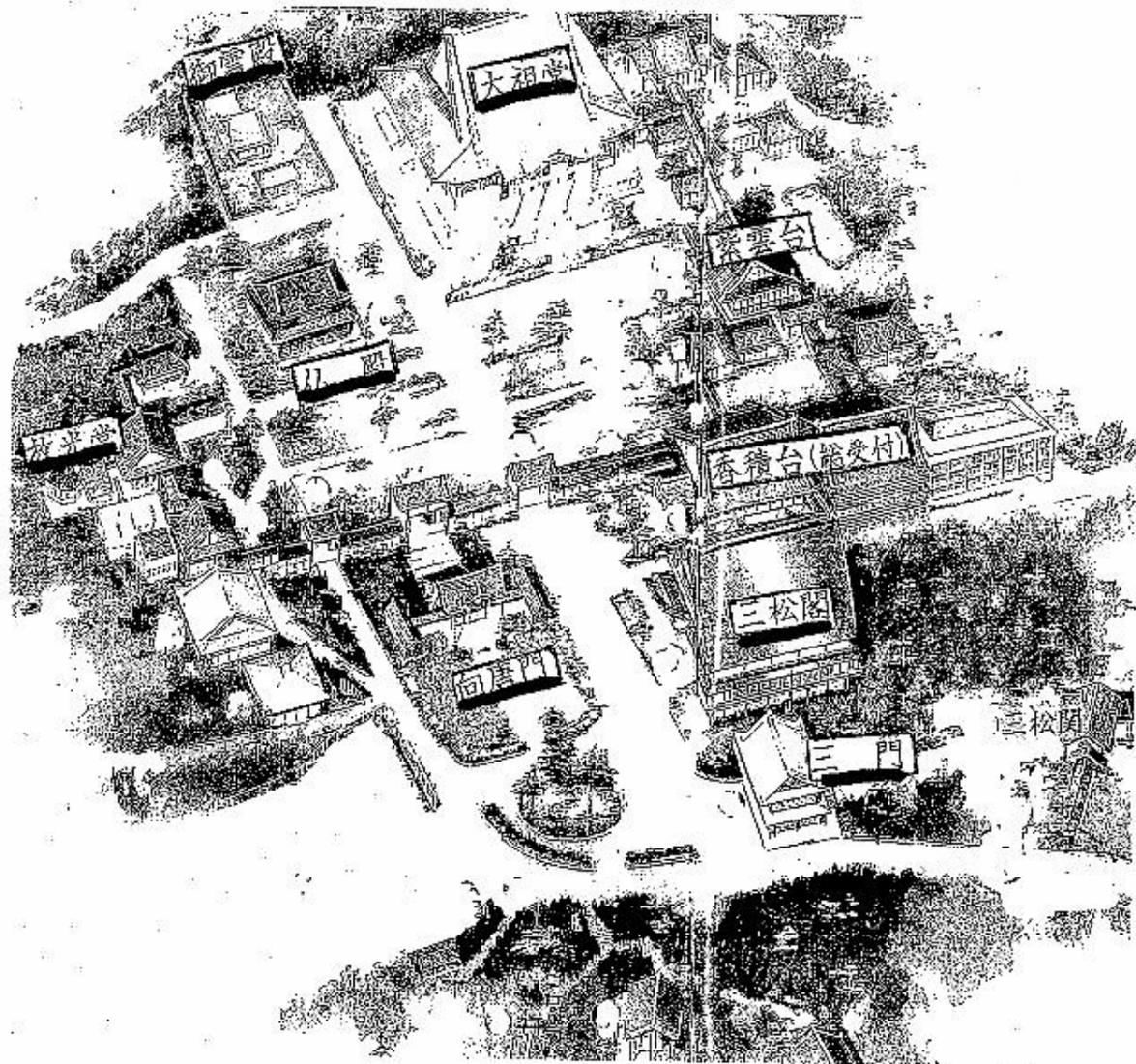
「こぼれ話」

墓地には石原裕次郎はじめ、浅野総一郎(明治の実業家)、芦田均(元総理大臣)、前田青邨(日本画家)、前田山(元横綱)、長谷川時雨(劇作家)など著名人の墓も多い。



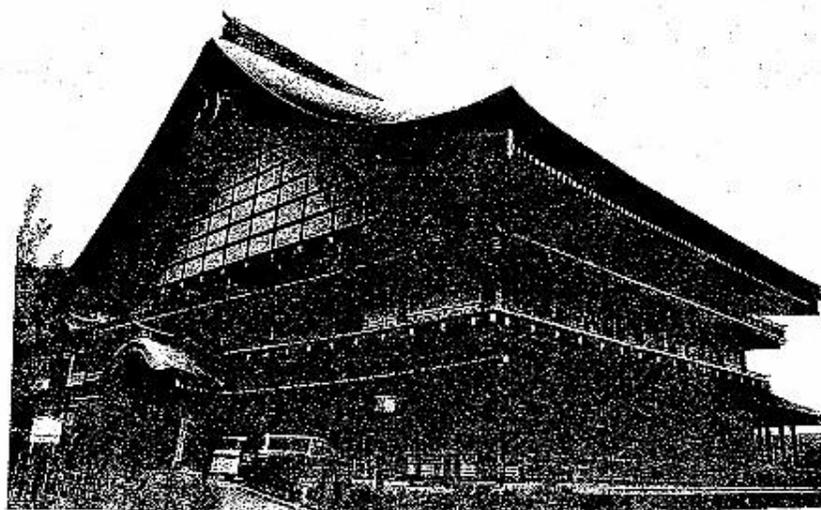
紫雲庭(森林式庭園)



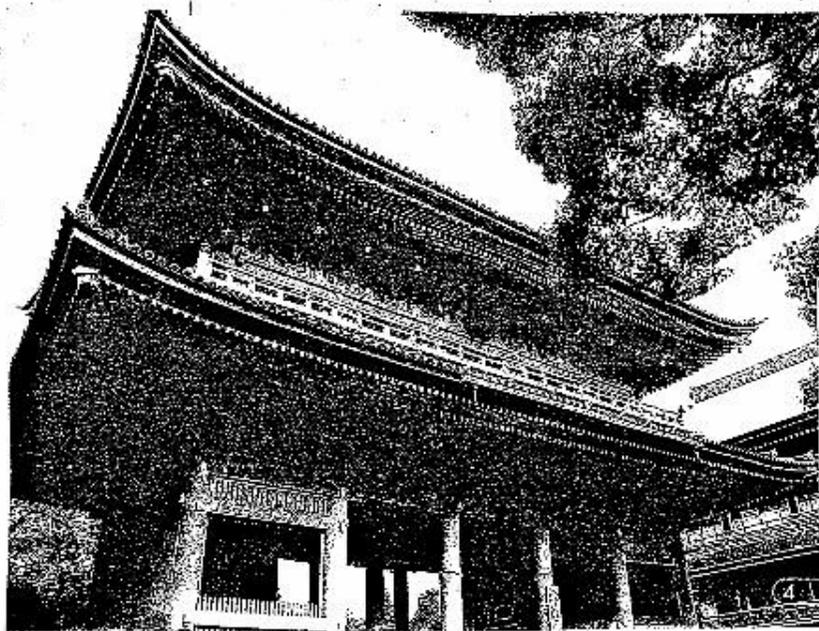


三松閣
Sanzōkaku

本山最初の関門で、
大正9年に落成した
ものである。



(総受付)
平成2年に完成した檀信徒研修道場。三松閣は、3階は宿泊所、4階は大講堂、1階は多目的ホール、地下1階・2階は齋堂、会議室、大浴場など。



鉄筋では日本一の門で、昭和44年に木原崇善氏の一寄進で建立されたもの。なお三門楼上には、観音菩薩・地藏菩薩・四天王・十六羅漢が祀られている。



向唐門
Mukaikaramon

仏殿に向かう縁側
唐風造りの桃山
式の建物。



本堂
Hondo

昭和40年に建立された本堂で、御開山笠山禅師さまはじめ、偉大な祖
師方をお祀りしている。高さ36メートル葺千疊という大きさに圧倒さ
れる。又、大退堂の下は瑞応殿といい、多目的に利用できるよう、大
小様々な部屋をそなえている。



精進料理

野菜、海草など植物性食品を材料とした料理。〈精進〉は仏教用語であり、仏教では肉食をむねとし、肉類を食さぬのを原則としているところから、肉類を用いない料理を精進料理と

よぶようになった。

日本人が菜食主義となったのは仏教伝来後仏教徒が肉類をさけたためともいわれるが、必ずしもそれだけではなく、人口に比して獣類が豊富でなかったからからともいわれている。

簡素生活の徹底を強調したのが、日本曹洞禅の元祖の道元である。彼が日本的精進料理を興したといわれている。

〈如常膳〉平成20年夏 参考

平椀	煮物（飛竜頭、人参、牛蒡、蓮さや、昆布巻）
膳皿	糸湯（南瓜、鷹豆、花巻根、陸元）、杏仁豆腐（鶴巻のみ）
中皿	菜花胡麻和え
小皿	筍木の芽合え
坪椀	胡麻豆腐
猪口	ぶどう豆
香皿	漬物（たけし、奈良漬、からし高菜）（鶴巻：三松は奈良漬漬）
汁椀	豆腐、わかめ
親椀	白飯or筍御飯

曹洞宗 医王山 成願寺

成願寺は天正三（1575）年鶴見区馬場の建功寺二世、浄庵守聞禅師の開祖にして、元和の頃薬師堂の別当として鶴見の二見台に堂宇を移転した。第二十世加藤海応和尚の明治39年2月、境内地を大本山総持寺移転再建地に献納して、昭和12年本堂を再建して現在にいたっている。

明治40年の大本山総持寺の敷地



横浜中華街

中華街の歴史は1859(安政6)年横浜開港とともに始まった。はじめ欧米人の買弁(ばいべん—貿易の仲介、通訳)として、また使用人として来日した華僑は、圧倒的に広州の人びとが多かった。今も200軒近くある料理店のうち約7割は広東料理の店である。

1870年代には約500人の華僑が住んでいたようで、閩帝廟が建てられ、劇場「会芳楼」もつくられ、今の中華街の基礎がつくられていった。

閩帝廟の前に横浜バザールがあり、1階のグリーンハウスが山口美江さんの店です。

横浜中華街の地図



媽祖廟 (まそびょう)

媽祖 [廟林黙娘(りんもうにゃん)] は28歳で修行を終え天に召されたあと、赤い衣装をまとって海上を舞い、難民を救助する姿が見られたので、人々は廟を建てて護国救民の神様として祀るようになりました。

媽祖廟は航海の安全を守る媽祖を祀る文化施設あり、あらゆる苦難に応える神として信仰されている。海外の渡航の際や、



媽祖廟

海外在住の中国人の信仰がある。

2006年3月に開廟した。

御利益 —— 家内安全、商売繁盛、心願成就、旅行安全、厄難削除

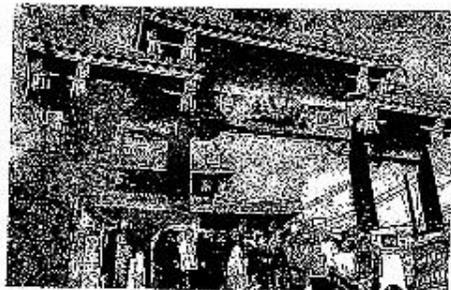
関帝廟(かんていびょう)

主神「関聖帝君」

関聖帝君は、武将関羽を神格化した名前で、関公・関帝などと呼ばれます。

「関帝」とは三国志に登場する関羽の尊称である。蜀の建国に活躍した英雄、武将として理財に精通していたため、財神すなわち商売繁盛の神様として厚く信仰されています。

交通安全、商売繁盛、入試合格



関帝廟

玉皇上帝

人間生活一切は、天から与えられた「天命」として決定されていると考えられ、天を祀ります 国泰平安

福德正神 (土地公) 金運・財産安全

観音菩薩 解滯・健康・縁談・安産

地母娘娘除難

それぞれ神様として華人たちの厚い信仰を集めている。



人気の中華菓子3種

こだわりの手作り菓子
味には絶対の自信

昭和元年創業の翠香園は、頑固に手作りの手法を守る中国菓子店。階上の工場で作られた、できたての中華菓子を1階の菓子部で直売している。ほどよいやわらかさにするために、天気や季節によつて配合を変えするという、まさに職人芸だ。油炸煎堆(揚げ餅)70円、玉帯粉(木の実のサンド)130円が売れ筋。イースト菌を使わず、手でこねて作るという中華まんじゅうは、昔ながらの小ぶりのもの。チャイシュー入りまんじゅう10個1500円。